

対象年度		令和 5年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		施設運営管理事業（生きがいふれあいセンター）						予算事業名		施設運営管理経費			
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令				
				03	01	09	1101	経常経費					
総合計画体系		みんなで支えあい 安心して暮らせる地域福祉を目指そう						事業の区分		主要事業			
		高齢者が生き生きと安心して暮らせる地域づくり											
		高齢者福祉の総合的な推進						担当課係等		介護福祉課			
事業期間		継続（昭和47年度～令和 7年度）											
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
高齢者の介護予防、健康増進及び生きがいづくりを図る。							昭和47年4月1日に筑西広城市町村圏事務組合から結城市へ事務移管され、老人いこいの家として運営開始。平成11年度、12年度に全面改修工事を経て、平成18年9月28日「結城市生きがいふれあいセンター」と施設名称及び使用目的等を変更し現在に至る。						
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】							【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】						
結城市生きがいふれあいセンターを管理運営し、高齢者のふれあいの場を提供するほか、介護予防教室の場として活用する。また、災害時の避難所として指定されているため、防災対策も行っていく。							市内在住の高齢者						
							【事業をとりまく環境の変化】						
							高齢化が進展する中で、元気な高齢者に対する施策が重要となっている。高齢者が生きがいをもって生活することは介護予防につながり、2025年問題を解決するカギとして、元気な高齢者のマンパワーの活用が必要である。						
【令和 5年度 事業内容】				【令和 6年度 事業内容】				【令和 7年度 事業内容】					
施設維持管理				施設維持管理				施設維持管理					

■事業費			R03年度	R04年度			
財源内訳	国	庫 支 出 金	0	0			
	県	支 出 金	0	0			
	地	方 債	0	0			
	そ	の 他	0	0			
	一	般 財 源	3,949	4,321			
歳 入 計（千円）			3,949	4,321			
歳出内訳	節（番号＋名称）		金額（千円）	金額（千円）			
	10	需用費	1,095	997			
	11	役務費	79	84			
	12	委託料	2,685	3,138			
	13	使用料及び賃借料	88	100			
	18	負担金補助及び交付金	2	2			
歳 出 計（千円）（A）			3,949	4,321			
伸 び 率（％）				9.42			
備考	総合計画58ページ 予算書84ページ						

令和 3年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		R03年度	R04年度	R05年度
活動 指標			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	利用者数	人	目標	8,400.00	8,400.00	8,400.00
	年間の施設延べ利用者数		実績	3,376.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	B どちらとも言えない	高齢者のふれあいや介護予防教室の場として利用者も定着しているが、築40年が経過し、老朽化が進んでおり、今後の施設の在り方の検討が必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	市が高齢者のふれあいの場や介護予防サービスの場所を提供することは妥当である。
	手段の妥当性	A 妥当である	高齢者のふれあいや介護予防教室の場として利用者も定着しているため、現状の運営は妥当である。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	平成30年より管理人を常駐化したことにより、利用予約を現地で行えるようにしたため事務の効率が図られている。
公平性	受益者の偏り	A 偏りは見られない	高齢者の団体のみの貸し出しではなく、市が主催する介護予防事業にも利用されていることから広く公平に提供している。
有効性	成果向上の余地	B どちらとも言えない	新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館としていた期間があるため利用者に影響が出ている。
進捗度	事業の進捗	B どちらとも言えない	新型コロナウイルス感染症の影響により、臨時休館としていた期間があるため利用者に影響が出ている。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
稼働率も高い状況であり、今後もこの状態で保ちたいが、施設の老朽化が問題である。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
公共施設マネジメントワーキングチーム会議において当施設の利用を令和9年までと方針を決めたが、一方で避難所ともなっていることから関係各課と再度検討が必要である。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☒ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
方向性の具体的内容 高齢者の文化スポーツ活動や介護予防の場として利用されており、一定の役割を果たしている。また、本施設は避難所としても指定されており、全室和室の施設は当館のみであるため、本市にとって有用な施設となっている。しかし、施設の老朽化が激しく、軽微な施設改修では市民の安全が確保できない状況でもある。今後は地区分館等の活用を段階的に進めていく必要がある。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了 ☐ 予定どおりの要求 ☐ 一部改善の上要求 ☐ 今回は見送り ☐ その他の処置
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。